

# 廳報

鳥取市上町87  
鳥取縣神社廳  
庁報編集室  
0857-24-7699

祝祭日には  
国旗を掲  
げましょう

## 国民精神昂揚運動合同研修会開催

嚴島神社宮司 長谷部 順



岡崎弘樹氏  
国民精神昂揚運動合同研修会が、

令和六年三月二十八日に米子コンベンションセンター小ホールを会場に開催された。

令和五年五月に、新型コロナウイルス感染症の位置づけが五類感染症になって以来初の開催となり、神社関係者百七十四名の参加を得て研鑽を積んだ。

今回は埼玉県芝園団地前事務局長岡崎弘樹氏を迎え「地域の共生と神社」を主題に十年後の地域のあるべき姿について基調講演があり、「十年後の地

域の姿」を演題に、氏は外国人居住者が多数暮らす、埼玉県の団地の自治会事務局長を務め、外国人との「共存・共生」に成功した体験を踏まえ、神社と地域住民との繋がりをさらに深める手がかりを示していただいた。

鳥取県においては外国人居住者の割合はそれほど高くはないが、交流を避け地域との付き合いをしない人が増えているという共通する点があり、岡崎氏の取り組みは非常に興味深い内容であった。氏の「同じ騒音でも、普段の付き合いがある人が出す騒音と付き合いのない人が出す騒音では感じ方が全く違う」と

いう言葉が印象的であった。

基調講演の後に行われた研究討議では、永江吉邦教化部企画室長を進行役に、小森治比古副庁長、船越寛明日野支部長、渡邊香里教化部企画室委員が登壇し、登壇者の自己紹介の後、(一)各々の神社と地域住民との関係の現状について、(二)現在感じている問題点、(三)それに対する具体的な取り組み、(四)十年後の神社と地域住民との関係を見据え



た取り組みを語っていただき、岡崎氏を交えて意見交換が行われた。最後に教化部長の中嶋俊史氏に研修のまとめをしていただき閉会となった。

## 鳥取県女子神職会 結成四十周年記念式典

鳥取県女子神職会は今年で結成四十周年を迎えた。

去る二月十八日には大山町所子賀茂神社にて会員奉仕による奉告祭を斎行。五月十八日に米子ワシントンホテルプラザにて、米原尊仁鳥取県神社廳長を始めとする県内神社関係者のほか、全国女子神職協議会山本行子副会長、中国五県各県会長の臨席のもと記念式典を挙行了。

金田会長による挨拶では、結成当時に思いをはせ、先輩諸賢から現会員に繋がった思いを次世代へ繋ぐことに触れ、米原廳長、山本全国副会長による祝辞の中で、女子神職の立場だからこそできることへの今後の期待が伝えられた。

式典の中で高校一、二年生の社家の子女四名の舞姫による『浦安の舞』が披露された。女子神職会が長年取り組んだ舞の稽古の中で、小学生の頃から舞に触れた舞姫たち。この度、各保護



社家の子女による「浦安の舞」披露

者の協力を得て大舞台上に臨んだ。鳥取県護国神社所有の相装束に身を包み舞う姿に会場からは大きな拍手が沸き起こった。舞姫や保護者からは経験できてよかった、ここからまた舞を続けていきたいとの声が聞かれた。続く祝賀会では四十年の歩み

がスライドで紹介され、懐かしい写真や若かりし姿に会場から感嘆の声が聞こえ、四十年の思い出話に花が咲いた。

実行委員会を何度も開催し、会員各々がこの日のために一丸となって取り組み作り上げた式典は、次の十年に、次世代へと繋がる礎となり、会員たちの笑顔があふれる一日となった。

(文責 後藤裕里香)

写真で見ると  
昔の祭礼行事

賀露神社ホーエンヤ祭

賀露神社禰宜 岡村吉彦

賀露神社のホーエンヤ祭で船に乗って千代川河口付近を下る海上行列。昭和初期く戦前の写真と思われます。現在は箱形の台船に神輿を納めて川を下っています。当時は二く三隻の大型の和船に分かれて乗っていました。向かって右の船に御神輿や榊・鉾などが納められ、左の



現在のホーエンヤ祭



昭和初期のホーエンヤ祭

船に幟武者らが乗っているのがわかります。またその周りを数隻のホーエンヤ伝馬船が巡っています。河口の東岸はまだ一面が砂浜でした。遠くに駒馳山(しちやま)がうっすらとみえます。

昔の祭礼行事写真を募集します

『廳報』では、昔の祭礼行事などが写る写真を募集しています。お持ちの方は神社廳まで連絡願います。

支部研修報告

大嘗宮建設を学ぶ

中部支部副支部長 米原俊宏  
中部支部教化研修会が三月二十六日に湯梨浜町の倭文神社社務所で開催された。

今回の研修会は、講師に日本伝統建築技術者棟梁認定・日本伝統建築技術保存協会会員の山根賢志氏を招き「大嘗宮建設」と題した講義を拝聴した。

大嘗宮建設の建設工期は、令和元年七月二十四日から九月十五日と定められており、旧江戸

城南側の敷地に廻立殿をはじめ、悠紀殿・主基殿、皇族の方々が参列される小忌幄舎が、東西に二棟、黒木造りの鳥居を六カ所に配する広大な建物を建設する工事工程について説明を伺った。

—— 講演要旨 ——

工事の元請けは清水建設で、当初予算十八億円だったが、名誉な事と八億円という破格金額で入札して請け負った。

現場大工七十名、クレーンなどを扱う現場作業員を含め百三十名。千葉県加工場の大工作業員を含めると二百数十名が工事に従事された。皇居作業員には作業時の注意事項と、毎日、皇宮警察による身体検査があり、工事内容などは持ち出し禁止であった。

山根講師は、秋篠宮様が参列される小忌幄舎の建築担当チームとして従事された。二ヶ月弱の短い工期のため、加工場で材料資材を完成させ現場で組み立てて、建前から二日後には大屋根がほぼ完成した。秋篠宮様の「余り予算を掛けないように」

とのご意向に配慮して、杉板の赤身を用いて檜皮風の色味を出し、天井にはシナ合板、柱材は節の多いものを使った。四日目には廻立殿の屋根が完成し、かなりのスピードで建築が進んだ。



建設期間中は真夏の暑さの中間調に作業は進められたが、九月に入り八日、九日に台風直撃のニュースが入り、前日にシートを貼りワイヤーで建物を補強して台風に備えた。九日午前四時過ぎに東京は暴風域に入ったため、作業員は現場確認のため

宿舎から向かったが、道路は冠水し倒木もあり、一時間半近くかかってようやく現地に到着し、現状を確認したら、大嘗宮はシートが剥がれた程度で済み、皆が神様の御加護があったと安堵した。

ただ、千葉工場は倒木と冠水で使用不能となり、工事の進捗が危惧されていたが、関係者の中に神奈川県の小田原に工場を持つ方があり、そちらを借りて無事に工事を完遂できた。

大嘗祭当日は、大工と作業員は、建物整備・作業班として携わる事が出来た。

余談だが、SNSに出雲大社の上空に鳳凰に見える雲が現れていたと出していた。本当に神様の御加護のもと、工事を終える事が出来たと感謝している。

■ ■ ■ 神社豆知識 ■ ■ ■

■ ■ ■ 式年遷宮 ■ ■ ■

伊勢神宮は、正式には「神宮」といいます。神宮には、皇室の御祖先の神と仰ぎ、私たち国民

の大御祖神として崇敬を集める天照大御神をお祀りする皇大神宮（内宮）と、衣食住を始め産業の守り神である豊受大神（外宮）をお祀りする豊受大神宮（外宮）を始め、一四所の別宮、四三所の摂社、二四所の末社、四二所の所管社があります。これら一二五の宮社全てを含めて神宮といえます。

神宮で二十年に一度、内宮や外宮の正殿などの社殿を建て直し、ご神体を遷す「式年遷宮」。前回の式年遷宮から十年が経過し、次のご遷宮へ向けた準備が始まる時期となりました。

遷宮にはたくさんのお祭りや行事があり、前回の遷宮では、御用材を奉曳する御木曳行事や、新宮に御白石を献する御白石持行事に、全国からも多くの特別神領民が奉仕し、鳥取県からも多くの参加がありました。

二千年前から守られ続けるご神域でのお祭り、参拝だけでなくご奉仕の機会もあると良いですね。

（後藤裕里香）

# 鳥取縣神社廳ホームページが完成

教化部広報室長・HP作成委員長 岡村吉彦

鳥取県神社庁では、近年の情報化社会への対応とICTを活用した氏子への啓発活動の推進を図るため、令和四年度より公式ホームページの作成に取り組みできました。

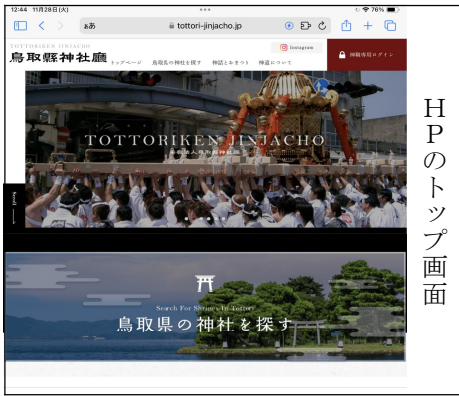
教化部内に「ホームページ作成委員会」を立ち上げて全体的な方針を協議し、具体的な作業については、五名のワーキングチーム（岡村吉彦・渡邊香里・小田成範・花田充・河上統一）が中心となって、内容・構成の検討とデータの作成・入力を行いました。何度も協議を重ねつつ制作を進めた結果、このたび完成の運びとなり、五月二十八日に米原庁長立ち会いのもと、インターネット上に公開いたしました。

多くの方々に鳥取県の神社や祭礼行事について知っていただくため、郷土色を出すことを重視し、県内のすべての神社の由

緒や特色ある祭礼行事をふんだんに盛り込んだ内容となっております。また、来る第六十三回式年遷宮を見据えて、伊勢神宮に関するコーナーを設けたり、女子神職会・神道青年会・教育関係神職協議会の活動を発信するため、それぞれの団体が発信している広報誌についても掲載しています。

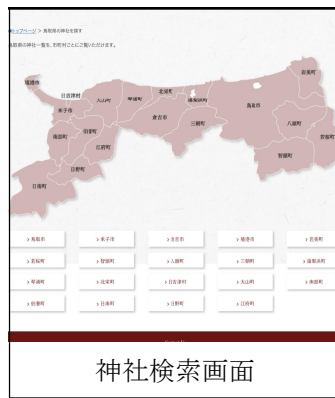
ホームページの構成・内容は以下のとおりです。

HPのトップ画面



## ①鳥取県の神社を探す

鳥取県神社誌『因伯のみよし』をもとに、県内八二三社の基本情報（鎮座地・御祭神・例祭日・由緒など）と写真・地図情報を掲載。



神社検索画面

## ②神話とおまつり

県内の特色ある祭礼行事と、鳥取県に関する日本神話及び関係する神社・地域の紹介。

## ③神道について

家庭祭祀や人生儀礼など身近な神道に関する記事と、伊勢神宮の式年遷宮について紹介。

## ④庁報・広報誌

『庁報』および女子神職会・神道青年会・教育関係神職協議会の広報誌の最新号とバックナンバーを掲載。

## ⑤その他

鳥取県神社庁の紹介、神職関係団体のリンク集、神職専用サイトなど。

今後は多くの方に活用して戴き、神社や祭礼行事について理解を深めて戴くとともに、神社の研修や氏子の教化活動等に役立てていただければ幸いです。

なお、制作にあたっては、教化部をはじめ多くの皆様に御協力をいただきました。この場を借りて厚くお礼申し上げます。掲載情報は、随時更新する予定です。また、当ホームページ

はパソコンだけでなく、スマートフォンにも対応しています。どうぞお気軽に御活用下さい。

スマートフォン・タブレット端末で読み込むことができます(QRコード)↑



神社紹介

江美神社

江美神社権禰宜 梅林友子

鎮座地 江府町江尾一八九四番地

御祭神 天照國照彦天火明櫛玉

饒速日命

他 十七柱

祭礼日 四月二十一日

七月二十一日

十月二十一日(例大祭)

由緒

当社は古来この地方の産土神にして、一円の総鎮守であった。



江美神社拝殿

往古より大社或いは大宮、尊氏等の社格を称えし事もあった。

天曆年中(九四七年)大和

国石上神宮の御分霊を勧請した神社である。

天文五年(一五三六)四代目

江美城主蜂塚右衛門尉の時本社を造営したことを記す棟札や、

天正九年(一五八一)吉川駿河

守元春公の棟札が現存し、他多数の棟札が残っている。

江美神社は大正四年五月二十

一日に七神社を合併し、大正十一年四月に現今の地に遷宮遷座祭が行なわれた。この時には、

伯備線江尾駅開通営業開始で近

郷近在の多くの人でごった返したという。

また、戦中戦地へ出生の際、

拝殿の御幕を切り取り御守りとして身につけたという。そのお

陰か殆ど戦死する人がいなかった

という話である。

昭和になって、秋の例大祭に

は子ども神輿が町内を巡幸し、祭典では小六年女子による浦安

の舞の奉納を続けて来た。

大正十一年四月の遷宮遷座祭の時、江府町久連出身東京在住の竹内善一郎氏より寄進された青銅製御神灯一對。



日々の奉仕で思うこと

諏訪神社禰宜 後藤裕里香

コロナが落ち着いた昨年十月、

当社も例大祭、御幸祭を斎行し

た。待ちに待った神輿渡御。いざ向かいかけるとこの数年で担ぎ手

不足が深刻化。一部規模を縮小

し、以前の二割減の奉仕員で協力し合い「やっぱり祭りが無いとい

けんわあ」と数年ぶりの清々しさ

を感じ、無事に御幸祭を終えることができた。

祭を続けていくために、奉仕

員については、今後、毎年の検

討が必要になると思う。

地域では、高齢化や少子化に

より、高齢者世帯や空き家が増加している。最近では家の売却や

解体で神棚や墓の相談も増えて

いる。

神道には「敬神崇祖」という言葉がある。神様を敬い、祖先

を尊び、感謝の心をもって日々

の生活を大切に過ごすこと。子孫に繋ぐことはできて、物理

的に継ぐことができない状況がある。

様々な形があるかもしれないが、それぞれに折り合いがつく

よう、真摯に対応させていた

きたいと思う。



新緑の季節は落ち葉の季節。

古い葉が境内中に舞い落ちる。

見上げる樹木の枝は青々しく、

自然の息吹を感じながらブローカー片手にお掃除。

以前は竹箒で一時間以上かか

った掃除も十五分ほどで終わられるようになった。便利な道具

が増え、人やモノの動きは格段

に速くなった。落ち葉を集めな

がら思う。氏子数が減り、参拝者もない。今できることと何なのか。あれこれ思い浮かんで消え、結局今まで続けてきたことをこの先も続けていくこと、と考えが落ち着く。とはいえないまでも従前のままでは何も変わらない。

今自分にできることをして、変わらざり続ける神社で、この先も氏子さんと氏神様を繋ぐことができれば良いと思う。

### 神職を拜命して

上津守神社禰宜 榎田圭子

権禰宜 安達真希子

米子市淀江町の上津守神社の禰宜、権禰宜として、姉妹で奉仕しております。令和三年から二年間かけて二人で資格を取

得し、先輩神職や氏子の皆様をはじめ、多くの方に支えられながら、一つ一つの神事を執り行っているところです。

資格取得のための勉強をはじめ、様々な方とお会いする中で、自分たちの無知や無自覚の諸々



姉妹で奉仕した神事

を恥じるとともに、非常に尊い世界に携わらせていただいたいることへの感謝の気持ちと責任の重さを感じる日々です。

先日、神事で各戸を訪問させ

ありました。また、先代宮司である曾祖父の人柄等、私たちの知らなかった家族の一面を教えていただくこともあります。

私たち二人が奉仕することを温かく受け入れてくださる氏子の皆様に感謝し、お宮でのお祭りや、皆様の人生の大切な思い出や、家族や地域がつながる一助となるよう、心を込めて奉仕をしていきたいと考えています。知識も経験も浅く、未熟な私たちですが、どうぞ今後とも、御指導のほどよろしく願います。

### 義捐金の御礼

本年元旦に発生しました、令和六年能登半島地震の甚大なる被害の報を受け、神社本庁で神社復旧復興義捐金の募集をはじめたことを受け、当県も関係各位にご依頼申し上げたところ、次の通り義捐金が集まり早速本庁へ送金いたしました。皆様の御厚志に対し厚く感謝し御礼申し上げます。

鳥取支部

七五一、〇〇〇円

岩美支部

七七九、〇〇〇円

八頭支部

二八七、〇〇〇円

気高支部

一六〇、〇〇〇円

中部支部

四五五、〇〇〇円

西部支部

五四六、一七五円

日野支部

二八三、〇〇〇円

八頭地区神社総代会

二、七一一、八四九円

鳥取縣神社廳

一三、八七二円

その他

三、一〇四円

合計送金額計(本庁送金額)

五、九九一、〇〇〇円

五月二十三日開催の神社本庁評議員会にて、北陸の被災県を代表して、石川県の北村嘉章庁長が義捐金のお礼を申し述べられました。

## 第二十五回中国地区 社頭講話研修会開催

中国地区神社庁では、社頭講話の実技講習を通して相互研鑽を図るべく、毎年各県持ち回りで開催してきた。

今回は鳥取県が主管をし、今



などを話し、最終日に分散会に分かれて、講話について意見交換をした。

初日の開講式では、米原尊仁神社庁研修所長が、「現在、様々な情報発信の手段があるが、直接参加者に語りかけることのできる社頭での講話は、より重要度を増す」旨の挨拶をして、早速実技演習に移った。

研修会の総合同会は永江吉邦教化部企画室長で、助言者として、米原尊仁庁長、小森治比古副庁長、来海邦彦神社庁理事が助言を行った。

県内の講話実習者は次の通り  
「後継者について」  
宇倍神社宮司 金田祐季

「字（あざ）に見る白尾の伝説」  
白尾神社宮司 上屋敷明美

「言葉について」  
賀茂神社天満宮権禰宜

自由討論では、年代別に四分  
散会に分かれて、社頭講話の手法や手段、内容などについて研究討議がなされた。最後に小森治比古副庁長が挨拶し閉講した。

和六年六月四日、五日の日程で、米子市の米子ワシントンプラザにて、二十七名の参加（助言者含む）で開催した。  
研修方式は、十一名の講話実習者が各十分の持ち時間で講話を行い、その後、参加者が感想

## 過疎地域神社 実態調査報告

神社庁の「過疎・少子化・高齢化」に伴う神社護持等の影響についての調査を、本年度は、気高支部と中部支部を対象に行った。

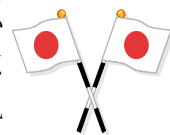
両支部とも、過疎・コロナ禍の影響について神社の神振行事の状況や、今後の神職後継者問題について協議がなされ、その後、教社を視察した。

### ◇ 協議された内容 ◇

- ・ 過疎・少子化で神振行事の人集めに苦労している。
- ・ 氏子数の減少もあり、年間祭典の回数が減った。
- ・ 宮司が長らく奉仕できず、代わりに斎主を引き受けている。
- ・ 跡継ぎのいない社家が増えてきている。
- ・ 自治会と神社運営組織の乖離。
- ・ 法人合併について学ぶ必要がある。
- ・ 氏子意識が低下している。

## 祝日に思う

賀露神社権禰宜 岡村吉隆



日本の祝日は十六日あり、これは先進国の中でも最多である。

しかし、祝日の由来を知らない国民は多い。新聞においても、建国記念の日の故事に触れた記事があったのは、五大紙のうち一紙だけだった。日本人の愛国の精神が薄らいでいる感じがしてならない。

民族とは「国語」といわれる。しかし、今日カタカナ語が氾濫し、スポーツ選手の記者会見でも英単語で応ずる選手もかなり多く、報道機関もそれを異としない。このように、国民とは何かが曖昧になりつつある。

日本人とは何か。我々は祝日を含め日々の生活の中で、日本の歴史を学び伝統を顧み、そこから日本人のあるべき姿を深く考えていく必要があると思うところである。

定例協議員会報告

鳥取縣神社廳定例協議員会が令和六年六月二十六日、倉吉市の「セントパレス倉吉」で開催された。

開会行事では、神宮遙拝、国歌斉唱、敬神生活の唱和に続き、一年間で亡くなられた神社関係者に対し黙祷を捧げた。

開会挨拶で、米原尊仁庁長は任期を迎えるにあたり、三力年の庁政を振り返り、「コロナ禍を経て、神社界は分水嶺に立っている。今後の振興策に加え過疎化に対する宗教法人としての対応を検討し、対策を講じる必要制」などの旨を述べた。

門脇豊文議長のもと議案は、上程されたとおり承認され、任期満了を迎える役員の改選で次の通り選出された。

〈役員〉

庁長

倭文神社宮司 米原 尊仁

副庁長

下味野神社宮司 小森治比古

理事

- 聖神社宮司 松田 直也
美取神社宮司 田中 明博
東井神社宮司 田中 倫明
相屋神社宮司 宇多川貴史
小鴨神社宮司 井上 智史
貴布禰神社宮司 来海 邦彦
樂樂福神社宮司 木山 典明
(総代会選出三名は八月二十二日の評議員会にて選出)

〈監事〉

- 白兔神社宮司 河上 博一
東小鹿神社宮司 川上 寛史
日下神社宮司 高橋 司朗

〈本庁評議員〉

- 庁長 米原 尊仁
副庁長 小森治比古
総代会長(評議員会にて選出)

新役員を代表して米原尊仁庁長が挨拶をし、元神社庁長の永江則英氏と前神社庁長の岡村吉明氏を顧問に推し、全協議員が賛同した。

令和六年度

重点事業目標(要約)

一、神宮奉養活動の推進

天皇陛下の御聴許を拝し、第

六十三回神宮式年遷宮の斎行に向けて神宮奉養の意義を啓発し、参宮運動、神宮大麻頒布を推進する。

一、国民精神昂揚運動の推進

皇室敬慕の念の醸成に努めること。鳥取縣護國神社への奉賛活動の推進。憲法改正に向けた活動。

一、教化活動の推進

神社本庁の教化実践目標を柱とした教化活動を推進する。ホームページの運営、「廳報」発行など広報活動の推進。国歌斉唱・国旗掲揚の定着化を推進する。

一、神社振興対策の推進

神社本庁の「過疎地域神社活性化推進施策」の推進。過疎・少子高齢化に伴う神社護持対策のための調査の実施。

表彰人事等

◇表彰◇

△本庁 (6・2・3附)

- 中部 倭文神社宮司 永江 重昭
日野 野上荘神社宮司 花田 敏子
鳥取 賀露神社総代 深澤 弘志

中部 灘郷神社役員 陶山健太郎 (6・2・24附)

△神社庁

- 鳥取 倉田八幡宮禰宜 永江 吉邦
全 湯所神社役員 森本 秋衛

気高 相屋神社役員 田中 正夫

西部 日御崎神社禰宜 門脇規矩子

全 大神山神社禰宜 相見 正邦

全 和田御崎神社禰宜 榎田 康一

全 津守神社役員 谷野 正

日野 日谷神社役員 若月 昇

◇感謝状◇

△神社廳

鳥取 賀露神社

株式会社リンガーハット名誉会長

全 賀露神社 米濱 和英

株式会社リンガーハット最高顧問

米濱 鉦二

◇人事◇

△新任

鳥取 長田神社権禰宜 大澤 悠翔

全 倉田八幡宮権禰宜 永江 樹生

△退任

西部 逢坂八幡宮宮司 太田 禎彦

全 逢坂八幡宮権禰宜 太田 勝能

△帰幽

岩美 服部神社宮司 横山 利

日野 大石見神社宮司 多田 重美